



## 市史編さんへの思いを語っていただきました

業者委託でも、最終的には事務局として、記載内容に責任を負うことが求められます。やり甲斐もありますが、神経を使いました。

歴史を書くということは、できるだけ史実に沿った内容であることは勿論ですが、その記載の論拠、史資料の出典の裏付けが必要で、その点は大変労力を要しました。

編さん委員の校正に温度差があり、締め切りに間に合わないこともありましたが、できあがってみるとほっと安堵しています。難しい記述になるのは避けられませんが、概要版などで平易で親しみのある物も考えています。

岡谷市はこれから着手ということで、完成までにはまだ時間があるので、じっくり研究して、より理想に近い市史になるよう期待します。

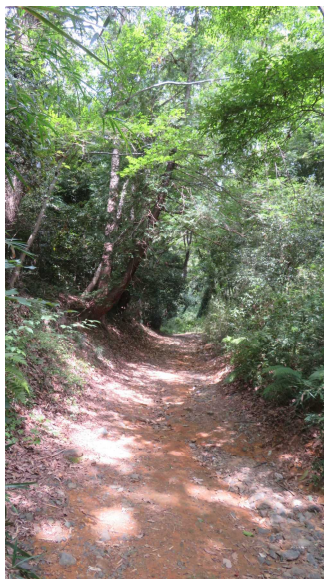
## まとめ・岡谷市史編さんにいかしたいこと

- 新市史刊行までの期間と周年記念行事への見通しを持ち、資料の収集・管理を全庁体制で進めていきたい。業者に委託する場合でも、契約内容をしっかり吟味したうえで、市が積極的にかかわる姿勢を大切にしたい。
- 直営・業者委託いずれの方法でも、膨大な業務となることが分かった。複数の目で事に当たることでミスを最小限に抑え、かつ責任をもって質の高い内容とするための組織体制が必要である。
- 市民参加の市史編さんであることが、ひいては将来の岡谷を展望する一つのよい機会となるだろうが、編さん事業をどのように市民にPRし協力を得ていくか、どのような活動を企画していったらよいか、今後知恵を絞って検討していきたい。

## 研修報告 「絹の道資料館」見学



お出迎え お蚕様のオブジェ



部分保存されている  
往時の「絹の道」  
かつてこの道を岡谷の生糸も横浜港に運ばれていきました。

1859年の横浜開港以降、横浜線が開通するまでの間、生糸は、車や人力車で八王子に集積され、八王子と横浜を結ぶ浜街道を經由して横浜港に運ばれ、海外へ輸出されました。そのため浜街道は「絹の道」とも呼ばれます。この歴史と絹の運送を担った商人・養蚕・製糸業について展示している絹の道資料館を見学し、岡谷ー八王子ー横浜の繋がりを学ぶことができました。



室内展示

岡谷市教育委員会生涯学習課 表示板設置  
岡谷市史編さん準備室



イルフプラザ3階の生涯学習活動センター入口に、岡谷市教育委員会生涯学習課 岡谷市史編さん準備室の表示板を設置しました。古材を利用した古風な看板ができあがりました。  
ご来庁の際にご覧ください。



資料館外観

資料あつての記述という清瀬市の言葉が印象的でした。  
小池準備室長

## 視察を終えて

和光市デジタルミュージアム「歴史の玉手箱」は、地元高校生や児童合唱団が撮影協力をするなど、若い世代の取り込みは学ぶものがあります。  
小林専門職員

ふじみ野市の庁内の資料集めが効率的に行われていて、参考になりました。  
霜鳥主幹

